

- 1 だいまくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは三ぎようめに書き、文しよは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくごとくにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

() 月 日 曜日

コケの森

四年 安房小 い組 赤松 始

森に入^っ た。たん、私は緑色に包まれた。

その色の正体は、木々の緑と、何よりモフモ

フのコケたちによる、緑の森だ^っ た。その小

さなコケを、ル^ーペで見ると、色々な形

を^していて、おもしろくな^っ た。

周りをかんさつして登^っ ていくと、川があ

っ た。私は石が動いた^ら、落ちてしま^うんじ

や ないかと心配しながら、ゆ^っ くりわた^っ た。

しばらくすると、鹿の宿[□] という切りか

ぶがあ^っ た。本当に鹿が入れそ^うなスペース

もあ^っ た。そして、大きな屋^々杉が一本あり、

その木の名前は、七本杉[□]。昔は、七本のえ

だがあ^っ た。そうだ。しかし、今は五本にな^っ

てしま^っ ていて、その分太くな^っ ていた。

次はいよいよ、こ^けむす森[□]だ。そこ

は、コケコケコケ、四方八方コケに包まれて

いた。木もあ^っ たけど、木がメインではなく

木にはりついたコケが、主役の森だ。

4、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいたくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは三ぎようめに書き、文しよは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくごにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

（ ）月 日 曜日

近くにあつたコケをルーペで見ると、ただ
 の小さなコケなのに、色んなしや類のコケが
 集ま、ていて、水と木とともに生きていて、
 ささえがあ、て生きている人間みたいたなと
 思、た。そんなコケたちには、この後太こ岩ま
 で登るパワーを、少しわけてもら、た。
 今年の夏は、まとま、た雨がなかなかふら
 ないので、家の庭でかれてしま、ているコケ
 たちを見て、白谷のコケたちがかかれ、ていない
 か、心配性の私はまた心配し、ている。

雨がふらないということは、川の水もなく
 なるのだらうか。雨がふりつづいてジメジメ
 するから早く晴れてほしいな、と思、うことは
 あ、ても、雨がふ、てコケたちをうるおして
 ほしいな、と願、うことは初めてかもしれな
 い。ど、うか、コケたちがかれませんように
 雨の大切さ、自ぜんのめいみ、もしコケがか
 れたとしても、それが何年もつづく自ぜん
 すかたなのかなとも、ふと思、つた。
 いやいや、太こ岩をこの目で見ると、一

- 4、と、は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいてもくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは二ぎようめに書き、文しよは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくごとぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

() 月 日 曜日

歩一歩進んで行き、目的地にたどり着くと、
 さ、そく太こ岩をたたいてみた。なるほど、
 本当に太こみないな音がした。ちよっとおも
 しろか、たけど、転んでしまうと岩の下の方
 に落ちこしまうと思うと、足がすくんだ。
 太こ岩からの景色は、雲がかか、こいてほ
 とんど見えなかつたけれど、少し雲が晴れて、
 青空が見えた時、家から見る青空よりも、は
 るかに気持ちよく見えた。
 記ねんに、太こ岩でジャンプして写真をと

った。家に帰ってその写真を見ると、
 っえ、落ちてるみたいじゃん。
 と、おもわず声にぞた。そして、足をふみは
 ずしていたらと思おうと、こわい感かこがよみ
 がえった。
 白谷うん水きよの太こ岩での思い出は、
 決してわすれられないけいけんだ。屋久島の
 めぐみが、これからもずうとフブキますよ
 うに。

- 4 、と。は、それぞれ一字にぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)

